

インド

スリランカの
生活・文化

スリランカ

コロンボ

守屋留学生交流協会
第26回奨学生

B.M.P. ラタナーヤカ

スリランカの風土

人口約2021万、面積は北海道よりやや小さいスリランカは、インド南端の東南に位置する島国である。国の周りに金色の砂浜が広がる海辺はとてもきれいで、海に近いところは、一年中海水浴を楽しめるほど暖かい。海から3～4時間かけて南部中央の高地に行くと涼しくさわやかな、軽井沢のようなところもある。小さな国土の中でいろいろな気候を体感できることがスリランカの特徴である。

私はいろいろな国に行ったけれども、スリランカはとてもきれいで、自然に恵まれた素晴らしい島国だと自信をもっている。だからこそ450年近くの間、ポルトガル、オランダ、イギリスの植民地になっていたのだと思う。

食文化

島国で自然豊かなスリランカでは、米、野菜、魚、肉などを食材として利用している。3食とも、ご飯と野菜、魚、肉などのカレーを食べるのがごく一般的である。カレーは日本のカレーとまったく違う。食材を多くのスパイスと胡椒、唐辛子と一緒に煮込む激辛カレーである。日本と違い、スリランカのカレーはスプーンで食べない。カレーを少しずつ手で取り、ご飯とよく混ぜ合わせて食べる。手で食べる時には、おもに右手で食べること、指先だけ使って食べることがルールである。

国民の約7割を占める仏教徒は、たいてい何でも食べるが、ヒンドゥー教徒は牛肉を、イスラム教徒は豚肉を食べない。それぞれの宗教にまつわる大事な行事の日には、学校や会社が休みになるだけではなく、肉を売らない。同様に、酒を売ることも禁止される。このこともスリランカの食文化の特徴である。

お茶の文化

茶の生産量が中国、インド、ケニアについて世界第4位のスリランカは、セイロンティーとよばれる紅茶で有名である。その紅茶の文化には長い歴史がある。スリランカは、1948年まで約150年間イギリスの植民地であった。茶の栽培が始まったのはこの間である。

紅茶の飲み方は、家庭によって違っている。代表的な飲み方は、粉ミルクと砂糖を入れる飲み方だ。砂糖は多めに入れる人が多い。レモンやジンジャーを入れる飲み方もあるが、朝は粉ミルクを入れて飲むのが一般的だ。飲む回数も多く、毎食後だけでなく、家庭やオフィスでも午前10時ごろと午後3時ごろに紅茶を飲む。1日5回くらい紅茶を飲むのが習慣となっている。

その一方で、アーユルヴェーダ（インドの伝統的学問）の教えで、紅茶が伝わる以前よりずっと昔から続く、いろいろな木の花や葉などを水に入れて沸かした飲み物を飲む習慣がある。さまざまな病気にも効くということで、現在も飲んでいる人がいる。紅茶の文化が伝えられて以来、人々が長い間飲み続けてきた伝統的で体にもよいこの飲み物ではなく、皆がこぞって紅茶を飲むようになったのは、私はちょっと残念なことだと思う。もしかしたら、一年中ほとんど暑い気候の環境下に適した飲み物で、古くから伝わるこの伝統的飲み物以上のものは世界中どこを探してもほかにはないのかもしれない、とさえ思う。

正月

スリランカのお正月は1月ではなく4月である。伝統的な星占いによって地球が太陽の周りをぐるぐる回って365日終わった後にまた戻ってくるのが4月であり、それが本当の新しい年の始まりだと信じられている。通常正月は4月13日と14日になるが、少しずれる年もある。新しい年が始まると、すべてのことを星占いによって決まった時間に行うのがスリランカのお正月の特徴である。

お正月は行事がたくさんある。新しい年が始まると、皆新しい服を着て寺や友達の家をまわる。また、新年に最初に火を使う際の行事もある。星占いによって決められた時間に全国の家庭で一斉に火をつけてミルクを沸かし、わざとミルクを溢れさせて、新しい年もミルクのように溢れるくらい幸せになるようにと祈る。それから料理を始める。このような伝統的なお正月の行事は、どの家でもずっと守り続けられている。

スリランカの学校制度

スリランカの学校制度には民族構成やイギリスの植民地支配政策が大きく影響している。スリランカには、おもに次の3つの民族が住む。仏教徒の多いシンハラ人が約73%、ヒンドゥー教徒の多いタミル人が約18%、イスラム教徒が多いムーア人が約8%となっている。現在はシンハラ語とタミル語の双方が公用語として規定され、英語は「リンクランゲージ」とされている。

スリランカでは、現在でもイギリス統治時代の影響は根強い。植民地時代、イギリスは英語教育を戦略的に実施し、現地エリートの養成やキリスト教の普及などに力を入れた。学校は英語教授言語学校、地域語教授言語学校、バイリンガル学校の3種類に分けられていた（現在もほぼ同じ学校教育体系であ



お正月の写真

る)。民族によって通う学校が異なり、それが卒業後の社会的地位に結びついていた。タミル人たちはキリスト教系の学校で英語教育を受けてエリート化していく一方で、地域語教授言語学校には仏教徒の多いシンハラ人たちが通った。彼らの社会的地位は高いとはいえなかった。そのため、仏教徒の社会的地位を改革しようと、19世紀後半から仏教復興運動が起こった。シンハラ語による教育、仏教の伝統に根ざした近代的教育が推進された結果、独立後の民族語教育が可能となったのだ。

さて、スリランカと日本の学校生活で大きく違うところを紹介したい。スリランカの学校では、11時ごろにおやつの時間がある。この時間は、自分で持ってきたサンドウィッチやビスケットなどを食べる。学校に売店がある場合は、そこで買って食べることもできる。プライマリ（小学校）は12時ごろ、セカンダリ（中学校）は2時半ごろ学校が終わり、家に帰ってから昼ご飯を食べる。コロンボ市内は交通渋滞が激しいので、昼ご飯がかなり遅い時間になってしまうという理由から、おやつを食べるのである。

最後に、私が今最も感じていることを述べたいと思う。この自慢の母国では長い間内戦が続いてきたが、現在は内戦が終わって、平和な光輝く島国になっている。世界中の人々にこの国の美しさを知ってもらい、たくさんの旅行者が来てくれることを切に願う。